

大阪府訪問看護ステーション協会 教育ステーション事業 実施報告

ブロック名：堺ブロック
ハート訪問看護ステーション
発表者：小川 咲子

実施体制と主な活動目標

- **実施体制：**

- ・ 協カステーション10カ所＋市内2拠点（シャローム）との連携
- ・ 特定看護師・特定行為研修修了者らによる専門的相談体制を確立

- **主な活動目標：**

- ・ 難渋症例への専門的支援
- ・ 多職種連携・災害対応力の強化（ACP・BCP研修）
- ・ 地域全体への周知・啓発活動

広報・啓発活動の工夫

● 攻めの広報：

- ・ 急性期病院への挨拶周り（副会長・理事）
- ・ 非会員への郵送・電話・訪問案内

● 地域連携：

- ・ ブロック会での周知
- ・ 新規事業所への個別支援（電話・訪問）

電話・FAX相談の実績

目標10件→実績14件

● 主な相談内容：現場のリアルな悩み

- ・ 制度・算定
 - ・ 難病や精神科・小児の加算算定ルール
 - ・ 介護、医療保険の併用や複数訪問の可否
- ・ 運営・実務
 - ・ 救急搬送時の同乗の可否
 - ・ マイナ保検証トラブルやBCP（災害対策）について

● 成果と分析：

- ・ 非会員からの相談が多数、地域の隠れたニーズを再認識した
- ・ 相談対応を通じ、自らの知識や対応を見直す良い機会を得た

訪問看護同行研修の実績（計6件）

● 精神科特化の支援：

- ・ 精神科特化の協カステーションによる支援（3件）
- ・ 新規立ち上げステーション管理者・職員への指導は、開設直後の不安を取り除く「伴走型」の支援であると感じた。
- ・ 新規事業所の早期軌道化を協カに後押し

● 病院との連携：

- ・ 同法人病院からの研修受け入れ（3名）
- ・ 病院看護師（ラダーⅠ）が在宅現場を体験
- ・ 退院支援や病棟看護へのフィードバックに貢献

コンサルテーション実績（専門・認定看護師との連携）

電話サポート（目標2件 ➡ 実績2件）】

- ① 在宅輸血の安全管理：マニュアル作成を支援し、事業所全体の安全体制構築の契機に
- ② 自立支援精神科訪問看護の算定疑義（ドレーン留置）：専門コンサルを経て協会委員会へ提起。明確な算定ルール確立に貢献！

同行訪問サポート（目標3件 ➡ 実績3件）】

- ① 褥瘡ケア（特定行為指導）：壊死組織除去の実践指導とケア最適化
- ② ストーマトラブル：装具選定とスキンケア指導で利用者のQOL向上
- ③ 心不全末期の持続皮下注：未経験ポンプの手技指導とリスク管理助言

専門職の知見を地域に還元し、現場スタッフの技術力と安心感を大きく底上げした！

府民相談会（2回開催）

中区区民フェスタ（10/26 @原池公園）

多職種連携： 看護・リハ・栄養・ケアマネで出展

参加者： 幼児～90代まで **計299名** が来場！

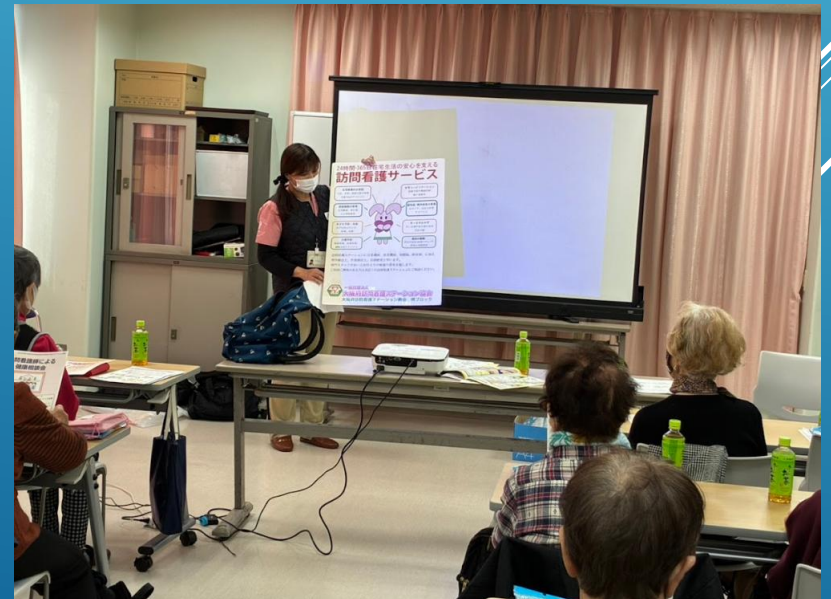
成果： 握力・血圧測定をフックに、潜在的な健康課題に直接介入できた。

認知症ぬくもりカフェ（12/5@東区）

内容： 防災研修＋災害リュック作成体験＋個別健康相談

参加者： 地域の高齢者など **計20名**

成果： 体験型企画で距離を縮め、「訪問看護」の相談の敷居を下げた



地域BCP研修

① 地域BCP策定研修（6/20開催）

実績：目標20名 ➡ 52名が参加

内容： 講義 + グループワークによる実践的学習

成果と参加者の声：

「まずはスタッフの身を守る」初動対応や、契約書の見直しなど**実践的な気づき**が多数！

アクションカードの活用や、他事業所と連携した「机上訓練」への意欲が大きく向上した。

地震・津波

発災直後 アクションカード

管理署・主任の指示があるまで、あなたがリーダーです
まずは落ち着いて、自身の安全確保を行いますよう

自らの安全確保が最優先
アクションカードに沿って対応後はスタンバイ(または代替拠点)に場所

災害モード「ON」：緊急地震速報の発報、大きな地震を感じた場合に発動

訪問先

移動中

事務所

① 自身の安全確保 ② 利用先および訪問相手の安全確保 ③ 避難出口の確認 ④ 電氣も必要とする医療機器の パッチャーへの切り替えの確認 ⑤ 地震発生後は必ず「緊急地震速報」の 発報が待ち構えているため、速に避難し 避難出口を確認 ⑥ 地震発生と同時に、利用先には避難指示 への移動、もしくは急ぎ避難を指示 ⑦ 急ぎ避難の場合、二次災害の予防 ⑧ ガスの火を止める	① 自身の安全確保 ② 安全な場所に滞在し準備 (「震害の可能性がある」とは、揺れが 止まるのを待たずに) ③ 状況が整えば帰る場合 ④ 自身の状況の報告 ⑤ 次のアクションの指示に待つ ⑥ 連絡が整わない場合 ⑦ 事務所前または代替拠点へ移動 ⑧ 避難の状況確認で、事務所前まで 移動し待機(場合、避難場所へ安全な場 所に一時避難) ⑨ 避難場所への連絡がある場合はリス クンで待機可能な状態であれば、待機にお く	① 自身の安全確保 ② 避難出口の確認 ③ 地震発生時の可能性があると、揺れが 等しい場合には必ず、緊急出口避難 ④ 静粛または代替倉による震動に備え て、代替倉内で静粛する(避難)の判断 ⑤ 避難しない場合、二次災害の予防 ⑥ ガスの火を止める ⑦ 揺れが収まったら、必ず「静粛モード」が スラフ「パワーガス」で止まるのを 確認 ⑧ 電氣のブレーカー等を落とす ⑨ 地震発生直後の静かに待機 ⑩ 電氣のコンセンを抜く ⑪ 震度あれば静かな、冬であれば 防寒対策のための防寒対策 ⑫ 電機ヘッド・エントマの設置 ⑬ スタマ「パワー電力モード」にして、パッ チー・スラフの電源 ⑭ 連絡が整えば帰る場合 ⑮ 自身の状況の報告 ⑯ 次のアクションの指示に待つ ⑰ 連絡が整わない場合 ⑱ 二次災害への予防策を講じた上 で、事務所前または代替拠点へ移動 ⑲ 避難の状況確認で、事務所前まで 移動し待機(場合、避難場所へ安全な場 所に一時避難) ⑳ 避難場所への連絡がある場合はリス クンで待機可能な状態であれば、待機にお く ㉑ スタッフの状況や情報のレベル等を鑑み つつ、代替倉でマニュアルに沿って、スタッ フに情報提供および対応指示
--	---	--



ACP研修（2回目担当）

② 人生会議（ACP）支援実践人材育成研修 （9/27開催）

実績： 目標50名 ➡ **53名が参加**

参加者： 病院看護師、訪問看護師、ケアマネ、介護士、MSWなど幅広い**多職種**が参加。

研修の意義と成果（アンケート分析）：

参加前の状態：半数以上が「聞いたことはあるがよく知らない」「実践の経験がない」

➡ **「これからACPを実践したい」と考える多職種への有意義な介入に！**

グループワークを通じ、職種の垣根を超えた「顔の見える関係づくり」に貢献。



オンライン症例検討会（8/22開催）

テーマ： 同行訪問の症例から学ぶ～在宅難渋症例の切り抜け方～（ZOOM配信）

実績： 目標20名 ➡ 27名（アンケート回収27名）

内容： 認定看護師の事例を通じ、困難事例の連携と同行訪問の活用方法を学習。

成果と参加者の声：

「WOCの同行訪問を初めて知った！ぜひ依頼したい」と依頼へのハードルが大きく下がる内容が多くあり。

褥瘡・ストーマケアの薬剤選択や処置方法が明確になり、**現場のスキルアップ意欲**が大きく向上。

同行訪問とは



引用: 専門性の高い看護師と連携するためのガイド
©N-art all rights reserved

訪問看護基本療養費(Ⅰ・ⅡⅧ)
12850円(月1回算定)

- Ⅲ度以上の褥瘡
- 合併症や難渋しているストーマ

ないかえ〜?



- 依頼元のステーションは、訪問看護療養費の算定可
- 訪問看護指示書は依頼元のみでOK。医療保険

事業を通して実感した「3つの効果」

① こちらから動くことで「見えないSOS」に気づけた（相談・広報・府民相談）

・待っているだけでなく、非会員への案内や地域の集まりに出向くことで、困っている方々の生の声を拾うことができた。

② 「専門家に頼る」ことの心強さを実感できた（コンサル・体験事業）

・認定看護師の皆様に同行訪問をお願いしたことで、現場の不安が解消するプロセスを私達自身が体験し、この仕組みの価値を広く伝えることができた。

③ 地域の「横のつながり」が広がった（集合研修・オンライン研修）

・BCPやACPなどの研修を通じ、普段なかなか会えない他職種や、他のステーションの方々と直接話し合う機会が持て、顔の見える関係が深まった。

次年度への「課題と引継ぎ事項」

① 地域に本当に求められる「研修テーマ」の模索

担当ステーションだけでなく、地域のリアルな声を企画に落とし込む仕組みづくりが必要。

② 「本当に支援が必要な層」へのリーチ

新規事業所や「非会員」の方々に、どう足を運んでもらうか。

③ 運営事務の効率化とサポート体制

- ・ 事業を多く実施するほど、案内やデータ管理などの事務作業が膨大になることを実感。
- ・ 次担当がスムーズに運営できるよう、ブロック全体での事務負担の軽減やサポート体制づくりが不可欠。

1年間の振り返りと今後に向けて

● 活動を通しての実感（感謝）：

- ・ 地域の訪問看護や多職種と繋がれたことが何よりの財産
- ・ 多忙な中でも確かな「楽しさ」や「達成感」があった

● 次年度にむけて

- ・ 今後は「協カステーション」として、事業をバックアップ
- ・ 立場を変えて、地域全体で教育ステーションを支えていきたい

ありがとうございました

